秋田・手取清水遺跡

1　所在地　秋田県横手市清水町新田字皿川端
2　調査期間　一九八七年（昭62）四月～一二月
3　発掘機関　秋田県埋蔵文化財センター
4　調査担当者　柴田陽一郎・山崎文幸
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　縄文時代晩期～近世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

手取清水遺跡は、横手市の西端に近い標高四〇・三～四二・九mの河岸段丘上に位置する古代～中世の集落跡である。東北横断自動車道秋田線建設事業に係る事前発掘調査として実施し、柱列四〇列・掘立柱建物二二棟・溝状遺構七〇条・井戸九基・竪穴住居一軒・竪穴状遺構六基・土壙七〇基・配石遺構一基・河川四条・土器埋設遺構四基・焼土遺構三基、その他の遺構七〇基の計三〇〇遺構を検出した。

（横手）

木簡は、遺跡中央部を流れていたと考えられる幅一二～二二m、深さ〇・六～一・五mの河川（SL三三三）より計六点が出土している。河川は、河底がほぼ平坦で、緩やかに立ち上がる河岸には本遺跡名の由来となった「手取清水」跡がある。伴出遺物には、縄文・弥生土器片、土師器・須恵器片のほか、鳥形・斎串等の祭祀用具、墨書土器一二〇点余（馗・王・伴・井・占ほか）、将棋の駒（桂馬）、漆器・下駄・鋤などの木製品多数がある。

8　木簡の釈文・内容

(1)　×□トチ×
　　×ノ山×　　(31)×(82)×2　081

(2)　せん□□□□□
　　□□□□□□□□□□□□　　(194)×(38)×4　081

(3)　「□□ほ□　おこ□〔とカ〕×
　　□□□□□　　(99)×(45)×3　081

(4)　（符籙）鬼鬼鬼□□　　(91)×(16)×4　081

(5)

・「□□〔飯カ〕一斗　□□　□　飯　丸子部　□□□飯□□〔卅カ〕
　同〔ママ〕人拾捌男六人女十二人合物陸種　□□□稲一□　飯□□」

・「津守部□□　□　　□□□□　日置子〔倉刀自カ〕□□□
　日□部継人　□　　物部子□□□□□
　　〔不カ〕
　覆□部□□□　□□　嶋□□□　□
　　〔奉余カ〕　　〔刑カ〕〔刀自カ〕
　日□□□□□□　□　□□□部□□□□□」

387×(67)×5　081

なお、木簡の釈読については、秋田大学教授新野直吉氏、東北大学助教授今泉隆雄氏、奈良国立文化財研究所寺崎保広氏の御教示を得た。

（山崎文幸）